犯罪発生場所がリスク評価に及ぼす影響の検討

ひったくりが発生した現場の動画を用いて
○蘇 雨青・入山 茂・高橋 綾子・滝口 雄太・桐生 正幸
(東洋大学)

キーワード：リスク評価, ひったくり, 環境要因

Examination of the influence on risk assessment for the place of crime occurrence
Yuqing Su, Shigeru Iriyama, Ayako Takahashi, Yuta Takiguchi and Masayuki Kiriu
(Toyo University)

Key Words : risk assessment, Snatching, environmental factors

目 的

本研究では、犯罪が認知された場所の動画刺激を用いて、犯罪が発生する可能性がある環境を検討し、いかなる要因がリスク評価を高めるかについて検討することを目的とし、フィールド調査であらかじめ評定された6か所(池袋駅周辺)から犯罪の発生を認知された2か所(地点Bと地点C)と犯罪の発生を認知されていない2か所(地点Aと地点D)を選出し、計4か所の映像を視覚刺激として提示し、ひったくりが発生する可能性がある環境に対し、リスク評価に及ぼす影響を検討した。

方 法

参加者 都内の私立T大学に通う大学生、男性61名($M=19.79$ 歳, $SD=0.77$), 女性133名($M=19.93$, $SD=0.73$)の計194名であった。

視覚刺激 警視庁がHP上に公表している犯罪情報マップに基づき、「ひったくり」があった現場、および無かった現場をそれぞれ3か所ずつ(池袋駅周辺)選出した。事前調査で犯罪に関する住環境評価尺度(羽生, 2011)と環境評定尺度(池間, 2015)を参考にして作成した環境評価尺度を用いて計6か所の環境について評定した。その後、6か所のうち犯罪の発生が認知された2か所および犯罪の発生が認知されていない2か所の計4か所の映像を視覚刺激として選出し、選定した地点から360度のように一周取り込めた映像を1分間に編集した日中の動画を刺激として提示した。

実験計画 動画化した4か所の刺激は、事前にリスク評価を行っており、それぞれリスク評価高地点(犯罪の発生が認知された2か所: 地点Bと地点C)とリスク評価低地点(犯罪の発生が認知されていない2か所: 地点Aと地点D)に分け、参加者は計4か所についての動画刺激を見るため、参加者内計画であった。

手続き及び内容 大教室における講義中に一斉に実施し、一連の映像はスクリーン上で呈示された。最初の動画を提示する前に環境評価に関する実験であることを説明し、実験内容の確認を行った。その際に、呈示動画の場所に関する情報として白地図1枚を提供し、参加者には「この映像は黒い丸のところで撮った映像です」(Figure.1参照)と教示し、それ以外の情報提供は一切なかった。刺激動画のカウンターバランスをとるために、犯罪の有無について、①犯罪なし、②犯罪あり、③犯罪あり、④犯罪なし、のようにし、毎回の動画刺激を見た上、ひったくりを含めて5種類の犯罪について、自分が被害に遭う可能性を求めた(評定尺度は「可能性はある」から「可能性はない」までの5段階評定)。実験が終了した後、デブリーフィングを行った。

分析ソフト 2要因分散分析の実施にはIBM株式会社が提供するSPSS Statistics ver. 23を使用した。

結 果

今回はひったくりや路上強盗の被害可能性評価に対し、地点、性別による2要因分散分析を行った。その結果、ひったく

りや路上強盗に性別の主効果($F(1,192)=0.55$, $p>.05$)は有意ではなかったが、地点の主効果($F(3,576)=20.38$, $p<.01$)が有意であった。下位検定(Tukey法)の結果、地点Aと地点B、地点Aと地点C、地点Bと地点D、地点Cと地点Dの間に有意な差が得られた。また、地点と性別の交互作用は有意($F(3,576)=0.95$, $p>.05$)ではなかった。以上より、リスク評価低地点の方がリスク評価高地点よりひったくりや路上強盗に対する被害可能性評価が低いことが示唆された(Figure.2参照)。

考 察

本研究では、ひったくりが発生する可能性がある環境に対し、リスク評価に及ぼす影響を検討しており、単なる映像を通してだけでも犯罪の発生が認知された場所に対して高いリスク評価を得られる傾向と示唆された。今回の研究は被害者の視点からリスク評価に影響を及ぼす要因を検討したが、選定したリスク評価高地点2か所はひったくりのみを扱っていた。今後、多様な犯罪発生現場を選定し、より現代社会における妥当性のある罪種別の要因とリスク評価を検討していく必要があると思われる。

Figure 1.白地図例

Figure 2.リスク評価の結果